

令和八年 第二十九期くまもと俳句ポスト

第二十九期開函

「霏霏Ⅱ」編集事務局長 西口 裕美子 選

特選

梅の香や八雲さんは居られるか

熊本県宇城市

永井 弘子

【講評】

NHK連続テレビ小説「ばけばけ」は好評で、いつも以上に小泉八雲旧居の句が寄せられた。際立っていたのがこの句。まだ春浅い門を潜ると、梅の香り。芳香を胸いっぱい吸い込んで、「八雲さんは居らるつでしようか（熊本弁風）」と声をかける客人の様が見える。奥の方から婦人の返事が聞こえてきて、春光輝く玄関に猫背の主が出て来そう。暖かな光景だ。ここに今も八雲が生きているような錯覚を覚える。心がほっこりする佳句だ。

わが輩通り賞

菜種梅雨漱石旧居に猫と居り

北海道苫小牧市

平野 露璃

入選

ハーンの絵に寄れば軌める春灯

兵庫県神戸市

河原 真紀

春の午後鼻かけ地藏どこを見る

熊本県熊本市

角崎 康弘

遠来の黄砂にかすむ森の都

熊本県熊本市

中村 和徳

佳作

よみがえる天守に高し夏の空

三重県伊勢市

梅森 安璃彩

大虎の安置の寺に花木槿

熊本県熊本市

坂口 美穂子

セコイアの直ぐ立つ空やつばくらめ

熊本県熊本市

佐竹 佐介

つつじ咲く崇烈の碑に合掌す

熊本県熊本市

梶山 純子

縁側の文机のきず夏兆す

熊本県八代市

白岩 眞由美

春畑を打てば寄りくる郷の鳥

熊本県熊本市

山田 政光

文豪の父たる顔や春の暮

熊本県合志市

大石 明日香

ふゆあかね金峰山から見る湯島

熊本県熊本市

杉谷 乙華

石垣に朝日こぼれて城もゆる

熊本県玉名郡

前村 正広

セツさんの笑う声聞くつばきの家

熊本県熊本市

漆島 多希子

投句総数 三百八句

市内 百三十七句

市外 百七十一句

開函日 令和八年六月三十日